巻末資料

表 1 -1　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (小椋山ゾーン)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
1	本殿一之御殿	八幡造、檜皮葺、朱・黒漆塗	建 77.355	建造物	国宝	神亀 2 (725) 年創建 (弥縁、託、到)、天平 9(737) 初見 (続紀)	万延元年 (1860) 改営 昭和 16 年改修	H24/9-H27/3	・屋根葺替 (檜皮葺の平葺のすべてと軒付の一部積み直し) ・塗装 (漆・単色) ・部分修理 (内部障壁画上張り補修)	A
2	本殿二之御殿	八幡造、檜皮葺、朱・黒漆塗	建 70.512	建造物	国宝	天平 5 年 (733) 創建 (託、到)、天平 9 年 (737) 初見 (続紀)	安政 6 年 (1859) 改営 昭和 16 年改修	H24/9-H27/3	のすべてと軒付の一部積み直し) ・塗装 (漆・単色) ・部分修理 (内部障壁画上張り補修)	A
3	本殿三之御殿	八幡造、檜皮葺、朱・黒漆塗	建 77.355	建造物	国宝	弘仁 14 年 (823) 創建 (弥縁、託、到)、 延長 5 年 (927) 初見 (続紀)	文久元年 (1861) 改営 昭和 16 年改修	H24/9-H27/3	のすべてと軒付の一部積み直し) ・塗装 (漆・単色) ・部分修理 (内部障壁画上張り補修)	A
4	上宮申殿	入母屋造、檜皮葺、朱塗	建 26.4	建造物		長元 5 年 (1032) 初見　　(類符)	文久 3 年 (1863) 改営 昭和 16 年改修	H26/5-H27/3	申殿は、内法長押から下の軸部の丹塗りと、縁廻り弁柄朱漆塗、木口黄土塗、縁下の丹塗り、地覆墨塗り。 塗装工事に伴い、錺金具は一旦取り外し、水洗い清掃・型直し・補足等を行い、塗装工事完了後に取り付けた。	A
5	上宮西回廊	切妻造檜皮葺朱塗	建 70.876	建造物		寛平元年 (889) 南廊とあり (宮縁)、築地は文治年中 (1185 ～ 90) 初見 (宇指)	文久元年 (1861) 改造 昭和 16 年改修	H15-H19	屋根平葺葺き替え、軒付、平葺、品軒付を葺き直した。	A
6	上宮東回廊	切妻造、檜皮葺、朱塗	建 70.876	建造物		寛平元年 (889) 南廊とあり (宮縁)、築地は文治年中 (1185 ～ 90) 初見 (宇指)	文久元年 (1861) 改造 昭和 16 年改修	H15-H19	屋根平葺葺き替え、軒付、平葺、品軒付を葺き直した。	A
7	上宮南中楼門	入母屋造、檜皮葺、丹他彩色	建 14.578	建造物	県有文	寛平元年 (889) 南中門とあり (宮縁)、久寿 3 年 (1156) 二蓋南楼として初見 (続左)	寛保 2 年 (1742) 造営 昭和 15 年改修	H19/6-H23/3	背面渡殿取り合いの屋根葺き替え	A
8	上宮西中門	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 10.24	建造物		寛平元年 (889) 西脇門とあり (宮縁)、治安元年 (1021) 西中門として初見 (小右)	文久元年 (1861) 改造 昭和 15 年改修			A

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
9	上宮東中門	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 3.27	建造物		長元 3 年 (1030) 初見 (天)	文久 4 年 (1864) 改営昭和 15 年改築	H24/7-H25/3	屋根檜皮葺の平葺を全て葺き直した。 野地は、腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。軒付・品軒とも全て積み直した。 鬼板は取り外しところ腐朽が著しかったので２基とも新調、銅板巻きを実施。箱棟も木部を全て取り替え銅板巻きを実施。 扉軸摺金具の錆膨張により破損した蹴放石の擬石補修を行い、軸摺金具をｽﾃﾝﾚｽ製で新調した。透塀 - 屋根檜皮葺の平葺の葺き直し、軒付の積み直しを実施。	A
10	上宮北中門	切妻造、檜皮葺、丹塗		建造物		文治年中 (1185 ～ 90)　初見 (宇指)	文久 4 年 (1864) 改営昭和 16 年改築	H24/7-H25/3	屋根檜皮葺の平葺を全て葺き直した。 野地は、腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。軒付・品軒とも全て積み直した。 鬼板は取り外しところ腐朽が著しかったので２基とも新調、銅板巻きを実施。箱棟も木部を全て取り替え銅板巻きを実施。 扉軸摺金具の錆膨張により破損した蹴放石の擬石補修を行い、軸摺金具をｽﾃﾝﾚｽ製で新調した。透塀 - 屋根檜皮葺の平葺の葺き直し、軒付の積直しを実施	A
11	上宮西大門	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 11.266	建造物	県有文	久寿 3 年 (1156) 初見　(続左)	元文 5 年 (1740) 造営昭和 16 年修理			A

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
12	北辰神社本殿	八幡造、檜皮葺、朱・黒漆塗	建 6.6	建造物	県有文	神亀 2 年 (725) 以前の創建 (託)、文治年中 (1185 ～ 90) 初見 (宇指)	文久 4 年 (1864) 改営 昭和 15 年改修	H17/7-H18/3	平成 17 年 3 月 20 日発生の福岡県西方沖地震の災害復旧 亀裂や剥落の生じた漆喰を一旦掻き落とし木摺を補修のうえ塗り直し。 軸部の傾斜には、造作材を一旦取り外し、傾き及び不陸を調整。 縁廻りには、腐朽した縁束・縁板の補修を行い、塗装の補修塗りを実施。 傾斜是正のため内部及び床下に筋違等の補強を実施。	A
13	春日神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 4.95	建造物		久寿 3 年 (1156) 初見 (続左)	文久 2 年 (1862) 改営 昭和 15 年改修	H23/9-H24/3	屋根檜皮葺の平葺を全て葺き直し。野地は腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。 軒付は不良箇所を積み直した。 品軒は、全て積み直した。鬼板はいったん取り外し、新規箱棟銅板巻き後に復旧した。	A
14	住吉神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 4.95	建造物		久寿 3 年 (1156) 初見 (続左)	元文 4 年 (1739) 造営 昭和 15 年改修	H23/9-H24/3	屋根檜皮葺の平葺を全て葺き直し。野地は腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。 軒付は不良箇所を積み直した。 品軒は、全て積み直した。鬼板はいったん取り外し、新規箱棟銅板巻き後に復旧した。	A
15	八幡鳥居	木造、朱塗、檜皮葺、柱根巻石及び台輪付	高 6.06	建造物	県有文	長元 3 年 (1030) 西鳥居として初見 (天)	文久 3 年 (1863) 修覆 昭和 16 年改築	29/1-H29/12	両柱根継のため揚家を行い、根継ぎ後根巻きコンクリート等の打ち直しを実施。 その他劣化の著しい塗装 (丹・墨・黄土) を塗直した。屋根檜皮葺は、軒付板を存置し軒付積直し、平葺を全て葺き直した。	A

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
16	若宮神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 16.5	建造物	摂	仁寿 2 年 (852) 創建 (宮縁)	天保 14 年 (1843) 造営 昭和 13 年修築	H21/6- H22/12	屋根檜皮葺の平葺を全て葺き直した。 野地は、腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。軒付は不良箇所を積み直した。品軒は、全て積み直した。箱棟銅板巻きは新たに包み直した。	A
17	若宮神社拝殿	入母屋造、檜皮葺、丹塗	建 33.42	建造物		仁寿 2 年 (852) 創建 (宮縁)	天保 8 年 (1837) 造営 昭和 13 年修築	H20/6- H21/3	屋根檜皮葺の平葺を全て葺き直した。 野地は、腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。軒付は上・下軒付の不良箇所を積み直した。品軒は、全て積み直した。箱棟銅板巻きは新たに包み直した。	A
18	若宮透塀	檜皮葺、丹塗	建 30.66	建造物		文治年中 (1185 ～ 90) 簾垣として初見 (宇指)	昭和 13 年改築	H21/6- H22/12	屋根檜皮葺のうち、北側部分の破損が著しい部分の補修を実施。	A
19	下宮一之御殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 16.8	建造物		弘仁年中 (810 ～ 24) 創建 (益・託) 文治 2 年 (1186) 初見 (元文)	文化 14 年 (1817) 改営昭和 14 年改築	H11/7- H12/1 H12/7- H12/12	平葺葺き直し、軒付・品軒積み直し	A
20	下宮二之御殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 16.8	建造物		弘仁年中 (810 ～ 24) 創建 (益・託) 文治 2 年 (1186) 初見 (元文)	文政 7 年 (1824) 改営昭和 14 年改築	H7/7-H9/3	H5 台風 6 号・7 号　災害復旧 平葺葺き直し、軒付・品軒積み直し	A
21	下宮三之御殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 16.8	建造物		弘仁年中 (810 ～ 24) 創建 (益・託) 文治 2 年 (1186) 初見 (元文)	文政 9 年 (1826) 改営昭和 14 年改築	H7/7-H9/3 H13	H5 台風 6 号・7 号　災害復旧 平葺葺き直し、軒付・品軒積み直し	A
22	下宮申殿	入母屋造、檜皮葺、丹塗	建 9.15	建造物		延慶 2 年 (1309) 初見 (西・壬)	昭和 11 年改築	H14/6- H14/11	平葺全葺き替え、上軒付すべて積み直し、下軒付の一部積み直し	A
23	下宮回廊	檜皮葺、丹塗	建 127.80	建造物		応永 33 年 (1426) 初見 (宮寺日)	安政 5 年 (1858) 改営昭和 11 年改築	H9/10- H10/3	西回廊 - 平葺の一部 (63.5㎡)、正面軒付、妻軒付、品軒積み直し	A
24	下宮神門	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 16.5	建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古・応指)	享保 5 年 (1720) 造営 昭和 11 年改築	H27/4- H27/12	屋根檜皮葺の平葺をすべて葺き直した。野地は腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。品軒付は全て積み直し箱棟銅板巻きと鬼板は不良箇所の補修とした。	A

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
25	高倉	高床、寄棟造、檜皮葺、丹塗	建 16.46	建造物	県有文	寛弘 6 年 (1009) 宝蔵として初見 (紀略・御堂)	慶応元年 (1865) 再興 昭和 11 年修築	H12/12-H13/7	平成 11 年 7 月 3 日北側の通路の向こうに生えていたナナミの大木倒木による災害復旧。 軒より上部を部分的に解体して補修のうえ組み直した (軒は北面と東面を解体)。 屋根は全面葺き直した。 軒付は南面の下軒付を除いて積み替えた。箱棟も一旦解体して、補修のうえ銅板包みをやり直した。鬼板は南北両方とも取り替え銅板包みを実施。 取り替えた部材は丹塗、胡粉塗を実施。垂木木口飾金具の欠失しているものは同様のものを作製して取り付けた。 平成 29 年、防蟻処理を実施した。	A
26	御食川			自然						A
27	宇佐神宮社叢		93,556㎡	自然	国天記					A
28	神輿屋跡 (遺構未確認)			地下遺構						A
29	護摩堂跡 (遺構未確認)									A
30	上宮渡殿	檜皮葺、朱塗	建 11.966	建造物			文久 3 年 (1863) 改営 昭和 16 年改修	H26/5-H27/3	渡殿は軸部及び軒廻りの丹・胡粉塗りを塗り直した。 廻廊は渡殿から続く床板の弁柄朱漆を塗り直した。 塗装工事に伴い、錺金具は一旦取り外し、水洗い清掃・型直し・補足等を行い、塗装工事完了後に取り付けた。	B
31	上宮土間回廊	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 261.156	建造物		寛平元年 (889) 東西垣として初見 (宮縁)	昭和 16 年新築	H25/6/1-H26/3/31	屋根檜皮葺の平葺を一部葺き直した。野地は、腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。軒付は不良箇所を積み直し、品軒は平葺施工範囲全てと西土間廻廊の西側を積み直した。	B

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
32	上宮透塀 (西大門左右)	檜皮葺、丹及び緑青塗	長 106.81	建造物		仁寿 2 年 (852) 荒垣として初見 (宮縁)	昭和 16 年改築			B
33	西大門脇門	切妻造、檜皮葺、丹塗	長 5.16	建造物			昭和 16 年新築			B
34	南大門	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 26.44	建造物		文治年中 (1185 ～ 90) 南楼として初見 (宇指)	昭和 16 年新築	R2/	屋根を檜皮葺から銅板葺に変更。 金具修理、塗装の塗り替えを実施	B
35	亀山神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 11.57	建造物			昭和 15 年改築	H28/4-H28/12	屋根桧皮葺の平葺をすべて葺き直し、野地は腐朽部分の補修を行い防腐処理を実施。 品軒付は全て積み直し箱棟銅板巻きは全て包み直し、鬼板は腐朽部の繕い及び部分的な銅板巻き直しを実施。塗装は、既存部を全て掻き落とし塗り直した。	B
36	亀山神社透塀	トタン葺、丹塗	長 16.66	建造物			昭和 15 年改築	H28/4-H28/12	破損している部分の木部及び銅板屋根を補修した。 塗装は在来面を水拭き清掃し、木部補修部のみ塗り直した。	B
37	石灯籠群			建造物		最古の石灯籠は慶長 13 年 (1608) 菅村和泉守寄進のもの				B
38	上宮石畳			建造物		久寿 3 年 (1156) 石畳 (続左)	昭和 15 年改修			B
39	上宮石段 (百段)			建造物		天和 2 年 (1682) 石段完成 (益日)、それ以前は坂道	昭和 15 年改築			B
40	下宮正門	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 10.28	建造物			昭和 11 年新築	H16/11-H17/3	平成 16 年台風 16 号による災害復旧 正面平葺は全て葺直し、品軒は全て積み直した。背面平葺は、棟から流れ１．１ｍと両妻蓑甲の破損個所を駒額まで葺き替えた。野地の不良部分は補修を施し、平葺葺替範囲については防腐剤を塗布。軒付は、正面の破損部分を積直した。	B
41	下宮透塀	桧皮葺、丹塗	長 14.54	建造物		延慶 2 年 (1309) 剱垣として初見 (西・壬)	昭和 14 年改築			B

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
42	下宮荒垣	コンクリート造丹塗	長 204.71	建造物		延慶 2 年 (1309) 剱垣として初見 (西・壬)	昭和 14 年改築			B
43	下宮築塀	コンクリート造本瓦葺	長 55.75	建造物		寛政 3 年 (1791) 初見 (宇改)	昭和 11 年改築			B
44	下宮御炊殿 (授与所)	入母屋造、檜皮葺、丹塗	建 50.14	建造物			昭和 11 年改築			B
45	下宮石畳			建造物		永正 15 年 (1518) 以前は石畳 (永)	昭和造営で改修			B
46	御木屋 (工作所)			建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古・応指)				B
47	祈祷殿	入母屋造、檜皮葺、一部銅板葺	建 366.183	建造物			昭和 16 年新築			C
48	神符授与所	檜皮葺、丹塗	建 57.02	建造物			昭和 16 年改築			C
49	神饌水井戸上屋	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 7.43	建造物			昭和 16 年改築			C
50	献金所	切妻造、銅板葺、	建 27.13	建造物			昭和 12 年、33 年新築？			C
51	透塀 (百段左右)	檜皮葺、丹塗	長 46.45	建造物		仁寿 2 年 (852) 荒垣として初見 (宮縁)	昭和 16 年改築			C
52	鳥居 (御輿掛石段上)	石造、笠木檜皮葺、朱塗	高 9.09	建造物			大正 2 年造立、昭和 16 年改築			C
53	鳥居 (八十八段下)	コンクリート造、棟は銅板、朱塗	高 3.88	建造物			昭和 58 年新築			C
54	下宮鳥居	鉄筋コンクリート造、一部木造、檜皮葺、朱塗	高 6.06	建造物			昭和 16 年新築平成 3 年改修			C
55	倉庫			建造物						C
56	トイレ (西大門付近)	ＲＣ造		建造物						C

表 1 -2　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (弥勒寺ゾーン)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
57	春宮神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 16.99	建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古・応指)	昭和 11 年改築			A
58	八坂神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 8.00	建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古・応指)	明治 9 年造立 昭和 13 年改築	H22/6-H23/3	屋根檜皮葺の平葺を全て葺き直した。野地は、腐朽部分の補修を行い、防腐処理を実施。軒付・品軒は、全て積み直した。鬼板はいったん取り外し腐朽部補修のうえ、新規箱棟銅板巻き後に復旧した。その他、小屋組・軒廻りの腐朽部を補修または取替を行い、内法長押から上部の見え掛かり部の塗装を実施。	A
								R2	塗装塗替え、金具補修	
59	呉橋	木造廊橋、唐破風造、檜皮葺、丹塗	建 87.60 長 24.67	建造物	県有文	正安 3 年 (1301) 初見 (益)	元和 8 年 (1622) 造営昭和 12 年修築	H27/4-H27/9	内外塗装の塗り直し、屋根檜皮葺の特に破損の著しい箇所の部分補修を実施。	A
60	弥勒寺跡			地下遺構		天平 10 年 (738) 創建 (弥縁・託等)				A
61	法華三昧堂跡			地下遺構				H25	発掘調査実施。 現地で埋土保存	A
62	黒男神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 4.62	建造物		延慶 2 年 (1309) 初見 (西・壬)	安政 2 年 (1855) 造営 昭和 15 年改築	H17 年	檜皮葺き替え、	A
63	西参道			道			昭和 14 年改修			A
64	八坂神社透塀	銅板葺、丹及び黒塗	長 72.90	建造物			昭和 13 年改築	R2		B
65	八坂神社鳥居	石造	高 3.48	建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古・応指)	寛永年中 (1624 ～ 44) 造立、H13 1 基新築	R2	コケ等除去	B
66	琴平神社本殿	一間社流造、厚板葺	建 2.18	建造物			享和元年 (1801) 造営			B
67	琴平神社鳥居	石造	高 2.73	建造物			宝暦 12 年 (1762) 造立			B
68	粟島社	石祠		建造物			安永 6 年 (1777)			B
69	稲荷社	木造		建造物		年末詳	年末詳			B

巻末資料

表 1-3　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (菱形池・頓宮ゾーン)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
71	表参道			道			昭和 16 年改修			A
72	大鳥居 (表参道)	明神鳥居、コンクリート造、朱塗	高 11.12	建造物			昭和 12 年新築	R1		B
73	水分神社本殿	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 1.10	建造物		安永 3 年 (1774) 龍宮として初見 (益日)	昭和 15 年修理	R1	塗替え、	B
74	木匠祖神社本殿	一間社流造、檜皮葺、朱塗	建 4.74	建造物		元禄 4 年 (1691) 創建 (小記)	昭和 15 年改築			B
75	頓宮本殿	三間社流造、檜皮葺、丹塗	建 33.71	建造物		長保 2 年 (1000) 仮殿初見 (権)	昭和 12 年改築			B
76	頓宮拝殿	切妻造、丹塗及び緑青塗、銅板葺	建 65.55	建造物			昭和 61 年新築			B
77	頓宮神輿庫	入母屋造、銅板葺、丹塗	建 43.07	建造物		文治年中 (1185 ～ 90) 初見 (宇指)	昭和 12 年改築			B
78	頓宮透塀	銅板葺、丹塗	長 41.21	建造物		文治年中 (1185 ～ 90) 初見 (宇指)	昭和 12 年新築			B
79	頓宮荒垣	コンクリート造、丹塗	長 135.6	建造物		文治年中 (1185 ～ 90) 初見 (宇指)	昭和 12 年新築			B
80	頓宮鳥居	木造、笠木檜皮葺、朱塗	高 6.09	建造物		文治年中 (1185 ～ 90) 初見 (宇指)	昭和 12 年新築			B
81	仮宮跡			地下遺構		長保 2 年 (1000) 仮殿として (権)				B
82	菱形池			景観			昭和 16 年改鑿、護岸工事	H30 ～ R 1	浚渫工事 (能舞台周辺と御霊水付近まで)	B
83	御霊水 (鍛冶場)			建造物				R2	塗装塗替え (玉垣)	B
84	手水舎	切妻造、檜皮葺、丹塗	建 19.8	建造物			昭和 16 年新築	H26/11-H27/5	手水鉢改築	C
85	絵馬殿	入母屋造、桟瓦葺、丹塗	建 95.47	建造物		明治 3 年中津町三木善助新造	明治 3 年年新築	H25/2-H26/12	現在の位置に建替え (法華三昧堂の遺構残存するため)	C
86	能舞台	入母屋造、銅板葺	建 89.25	建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古)	昭和 17 年改築	H16	屋根を檜皮→銅板に変更	C
87	能舞台楽屋	入母屋造、銅板葺	建 204.9	建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古)	昭和 17 年改築	H16	屋根を檜皮→銅板に変更	C
88	鳥居 (御霊水前)	明神鳥居、コンクリート造、朱塗	高 2.91	建造物			昭和 45 年改修	R2	塗装塗替え	C

表 1--4　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (宮司職舎・球場ゾーン)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴		要素区分
89	宮司職舎表門	薬医門、入母屋造、本瓦葺	建 14.9	建造物		寛保 3 年 (1743) 普請 (公著)				A
90	宮司職舎堀	石積	長 54.00	景観						A
91	東参道			道			昭和 15 年改修			A
92	宮司職舎	木造、瓦葺及び茅葺	建 452.1	建造物		慶長 13 年 (1608) 初見 (神宮)、大正 13 年大幅改修	江戸末期			B
93	宮司職舎透塀	木造、本瓦葺	長 7.6	建造物		寛保 3 年 (1743) 築地石垣普請 (公著)				B

表 1--5　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (大尾山ゾーン)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴		要素区分
94	大尾神社本殿	一間社流造、銅板葺、丹塗	建 6.6	建造物		天平神護元年 (765) 創建 (弥縁・託)	昭和 12 年改築	R2	塗装塗替え、壁板等の補修	A
95	大尾神社拝殿	切妻造、銅板葺、丹塗	建 9.9	建造物			昭和 12 年新築	R2	塗装塗替え、壁板等の補修	B
96	大尾神社中門	トタン葺、丹塗	幅 2.42	建造物			昭和 16 年新築	H4/2-3	台風 19 号で倒壊 建起し、木部一部取替え	B
								R	塗装塗替え、壁板等の補修	
97	大尾神社透塀	トタン葺、丹及び青塗	長 18.88	建造物			昭和 16 年新築	H4/2-3	台風 19 号で倒壊 建起し、木部一部取替え	B
98	大尾神社鳥居 (本殿前)	木造、銅板葺、丹塗	高 3.67	建造物			昭和 16 年新築	H4/2-3	台風 19 号で倒壊 木部全面取り替え	B
99	大尾神社鳥居 (登口)	明神鳥居、コンクリート造、笠木檜皮葺、朱塗	高 6.97	建造物		安永 3 年 (1774) 石鳥居造立 (益日)	昭和 17 年改築	R1	塗装塗替え	B
100	護王神社本殿	一間社流造、鉄板葺、丹塗	建 3.43	建造物		不詳、明治 3 年造営 (小記)	昭和 12 年改築	R2	屋根をトタンから銅板葺に変更、塗替え	B
101	護王神社中門	銅板葺、丹塗	幅 2.42	建造物			昭和 16 年改築	R2	屋根をトタンから銅板葺に変更、塗替え	B
102	護王神社透塀	銅板葺、丹塗	長 14.54	建造物			昭和 16 年新築			B
103	大尾参道			道			昭和 15 年改修	R1	舗装、排水溝設置、一部新規敷設、ほか	C

表 1--6　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (寄藻川ゾーン)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴		要素区分
104	寄藻川			自然						A

表 1--7　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (宮迫地区)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴		要素区分
105	栄興寺 (心乗坊) 表門			建造物		寛永 5 年 (1628) 絵図初見	寛延 4 年 (1751) 造立	H30 R2 ～	瓦養生工事 解体・修復工事	A
106	宮迫坊跡	住民の居住地域		地下遺構		神護景雲元年 (768) 心乗坊創建 (到) ？		H28	熊本地震後の豪雨災害に伴う復旧工事 石垣の積み直しを実施	A
107	西谷道	アスファルト舗装		道						A
108	中谷道	アスファルト舗装		道						A
109	東谷道	アスファルト舗装		道						A

表 1--8　史跡宇佐神宮境内　構成要素一覧 (御許山地区)

物件番号	名称	構造	建坪 (㎡) 高・長 (m)	分類	指定区分	史料上にみえる創建・初見年次	建築・改修年次	最新の修理等履歴 (網かけは補助事業で実施)		要素区分
110	大元神社拝殿	木造、鉄板葺	建 65.65	建造物			昭和 30 年改修			B
111	大元八坂神社本殿	一間社流造、鉄板葺	建 4.13	建造物		応永年中 (1394 ～ 1428) 初見 (応古)、康正元年 (1455) 祇園社あり (小)	昭和 30 年改修			A
112	大元神社旧社務所	木造、トタン葺	建 24.79	建造物			昭和 30 年改修			D
113	大元神社社務所	木造、トタン葺	建 85.8	建造物			昭和 30 年改修			C
114	御許山坊跡			地下遺構		承徳 3 年 (1099) 以降に六坊建立 (宮縁)		H16	再建工事	A
115	御許山正参道			道		正和 2 年 (1313) 初見 (託)		H5	台風 19 号で被災した参道、石段を復旧	A
116	神石 (三巨石)	巨石	不明	自然		八幡宇佐宮御託宣集に絵図あり				

史跡宇佐神宮境内及び天然記念物宇佐神宮社叢保存活用計画策定委員会設置要綱

令和元年６月 25 日
教育委員会告示第５号

（設置）
第１条　史跡宇佐神宮境内及び天然記念物宇佐神宮社叢保存活用計画の策定に関する事項を検討するため、史跡宇佐神宮境内及び天然記念物宇佐神宮社叢保存活用計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（職掌事務）
第２条　委員会は、次に掲げる事項について審議する。
(1)　史跡宇佐神宮境内及び天然記念物宇佐神宮社叢の保存活用に関すること。
(2)　その他史跡宇佐神宮境内及び天然記念物宇佐神宮社叢保存活用計画策定事業に関し必要な事項。
（組織）
第３条　委員会は、別表に掲げる者をもって組織する。
２　委員会に委員長及び副委員長各１人を置き、委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。
３　委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。
４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。
（委員の任期）
第４条　委員の任期は、史跡宇佐神宮境内及び天然記念物宇佐神宮社叢保存活用計画の策定が終了するまでとする。ただし、その職をもって選任された委員は、任期中であっても、その職を離れたときは、委員の職を失う。
２　委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（会議）
第５条　委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、その議長となる。
２　会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（意見の聴取）
第６条　委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
（事務局）
第７条　委員会に関する事務を処理するため、委員会に事務局を置く。
２　事務局に事務局長を置き、社会教育課長をもって充てる。
３　事務局の庶務は、社会教育課において処理する。
（補則）
第８条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員に諮って定める。

附　則

この告示は、公示の日から施行する。

別表 (第３条関係)

区分	職名
委員	学識経験者 (10 人以内)
〃	宇佐神宮職員
〃	歴史史料に関し識見を有する者
〃	区長（宮迫、正覚寺、日足）
〃	教育次長

令和 4 (2022) 年 3 月 15 日　印刷
令和 4 (2022) 年 3 月 29 日　発行

史跡宇佐神宮境内
天然記念物宇佐神宮社叢
保存活用計画

発　行　　宇佐市教育委員会
〒 879-0492
大分県宇佐市大字上田 1030 番地の 1
TEL 0978-27-8199　　FAX　0978-33-5120

印　刷　　いづみ印刷株式会社
〒 870-1117
大分県大分市高江西 1 丁目 4323 番地の 25

Preservation Utilization plan
Precinct ＆ Forest of Usajingu shrine
(national historic site ＆ national natural monument)

2022

Usa city board of education